
Red tornado

～赤い竜巻・マリオ～

天才泣き虫ノコノコ君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Red tornado

（赤い竜巻・マリオ）

【Nコード】

N2900I

【作者名】

天才泣き虫ノコノコ君

【あらすじ】

この物語は、主人公『マリオ』と、その仲間達と共に、様々な学園ライフ(?)を作り上げていく物語である。

いや、ただのバトルストーリーかも……

ルイージ「おいつー!!」

第一話『理事長の刺客』（前書き）

これは、僕が別のサイトで一番最初に書いた作品です。

コピペして少し細工を加えただけなので、ト書き&完成度の低い作品です。

どうか温かい目でお読みください。

マリオ「俺の名は……マリオだ。」

ルイージ「マリオ?!?!じゃあ君が……」

マリオ「そうだ。今日からこの教室で世話になる、マリオだ。」

不良C「くっそお、俺の子分を殺しておいて、いきなり転校生ヅラかよ!スッゲエムカつくぜ!おいマリオ!転校早々悪いが死んでもらうぜ!喰らえ!へアイアンアームラリアート!」

ルイージ「!?!あいつのラリアートを喰らって生きて帰った人はいない!あわわわわ、マリオが死んじゃう!」

マリオ「フン、くだらねえ技だな。」

ガシィツ!

不良C「なにい?!俺のアイアンラリアートを受け止めただとお?」

マリオ「死ぬのはお前だ!」

ぎしやああ!

ルイージ「そんな…拳骨1つで人を血塗れにするなんて…」

ホームルーム
H R

先生「きよ…今日から……マリオ君が…この学級に……もうだめ

だあ！」

先生は恐怖のあまり血を吐いて倒れた。

[illegible]

「マリオ！如何してくれるんだよ！先生が死んだじゃないか！」

マリオ「死んじやいねーよ。」

「ルイージ?」

マリオ「いいか、先生はな、今は俺達の心の中で、いつまでも生き続けるんだ。」

ルイーダ「いつまでも……僕達の……って、結局死んでるじゃないか!! 完全に間違った考え方してるよこの人!」

生徒A 「いや、マリオの言ってることは正しい。」

生徒B「そうだ！先生は俺達の心の中に生き続けるんだ！」

生徒ども「そうだそうだ!!」

「マリオ賛成」

ルイージ「もう、どうでもいいや。」

キノコ学園理事長室

「理事長様、マリオというものが転校してきました。マリオ

は現在、3人の生徒と1人の教師を殺害しています。」

理事長「マリオ……。今すぐ退学させなさい。」

???「しかし、退学させようとした教師や生徒会どもが皆遣られています。」

理事長「仕方ないですねえ。カメック、あなたの力でマリオを退学させなさい。この世の退学を……。」

カメック「お任せください。」

くキノコ学園高等部1年4組く

数学の先生「今から数学の授業を……って、何でルイージしかないの?」

ルイージ「みんな学校の外へ出て行きました。」

先生「なぬう???!!!!」

くキノコロードく

マリオ「よっしゃあ!1000000コインゲットオ!」

生徒A「やりましたね!マリオ様。」

生徒B「でも、ただの通行人襲って、やばくないですか?」

マリオ「アホ、この世は弱肉強食の時代なんだよ！」

生徒C「それ、動物の世界じゃ・・・」

マリオ「!!!」

生徒C「しまったっ!」

生徒C死亡

マリオ「また無関係な犠牲者を出してしまった。」

生徒D「いや、マリオ様が遣ったんじゃ・・・」

生徒D死亡

生徒E「マリオ様には、逆らえない・・・」

???「では、マリオが死ぬところが見たいか？」

マリオ「誰だ!」

カメック「私はカメック、理事長の命令により、お前を潰しにきた
!」
………続

第一話『理事長の刺客』（後書き）

～登場人物紹介～

『マリオ』

キノコ学園に突如として現れた男。

不良に絡まれたルイージを助けたかと思うと、キノコ学園で好き放題に暴れまわる。

気に入らない奴は容赦なく殺す残忍な性格。

第二話『炸裂!! 赤い竜巻』

くキノコロードく

カメック「私はカメック、理事長の命令により、お前を潰しにきた！」

マリオ「なにく！カメックだとー！カメックって言うならマジックの1つや2つ見せろ！」

カメック「はい、ここに種も仕掛けもない筒があります。そこにボールを入れて、ハンドパワー…って、それはマリックじゃー！！」

マリオ「グハハハハ。すまんすまん冗談だ。というわけで、何者だ。」

カメック「カメックって言うてるだろうが！！！！もういい！早速殺す！！！」

マリオ「それはこっちの台詞だ！いくぜ！『回転蹴り』」

カメック「ナハハハハ、効くか！！『モンスター召還』。」

そう言うのと1人の生徒が怪物と化した。

怪物「グロアアアアアアアア！！！！」

カメック「グヒヤヒヤヒヤヒヤ！仲間には攻撃できんだろ！」

ぶちっ！ 怪物（生徒）死亡

カメック「獲え獲得得えええ得得え得エエ？？？？？？？？？？お前の辞書には不可能の文字は無いと思うが、仲間という文字もないのか！」

マリオ「ない。（あっさり）ちなみに、思いやりも友達もさらに家族という文字も無い。皆俺が遣った。」

生徒F「鬼だ。」

生徒F死亡

マリオ「くそお！よくも俺のダチを！」

生徒G「いや、あんたが遣ったんじゃ…しかも友達という文字は辞書に無いんじゃ・・・」

生徒G死亡

カメック「残酷じゃのう。じゃあ、私がマリオを殺めて世界を平和にしてやるよ！！！！『カメラタマジック』！！」

マリオ「しまった！！逆らう生徒を殺しているのに氣をとられ・・・」

どかーん！！

マリオ「うわあああああああ！！！！！！！！！！」

生徒ども「やったー！マリオが死んだ！！万ざーい！！」

カメック「グヒヤヒヤヒヤヒヤ！これでマリオも終いじゃあ！」

???「お前がな。」

カメック「ゲッ、マリオ！生きていたのか！」

生徒H「ちっ、このまま死んでればいい者を……………あっ……………」

生徒Hはどう表せば分からない体になってしまった。

マリオ「そろそろ本気を出すか。形の亡き者にしてやる…」

カメック「なっ、何だこの力は！！」

マリオ「ウオオオオオオアアアアアアアア！！！」

マリオはパワーを溜め、両手から炎を湧き出させた。

カメック「私はにげるう！！」

マリオ「逃がさないぜ！！死ね！！カメック！！『赤い竜巻』レッドトルネード！！！！」

マリオの手から巨大な炎の竜巻を放った！！
竜巻はカメックを包み、燃え上がらせる！！

カメック「グギヤアアアアアアアア……………」

カメックを倒した。宣言どおり、形の亡き者になった。

マリオ「ぜえ、ぜえ、はあ、はあ。」

生徒A「やりましたね！マリオ様！（くそお、死ねば良かったものを・・・）」

マリオ「あんな雑魚、クリキング以下だぜ。」

生徒B「そうですね……。」

そこへ、ルイージ到着。

ルイージ「マリオ！それに皆、なにやってるんだよお。これ学園小説でしょ！」

マリオ「この小説に、そんな面影ねえ・・・」

……続

第二話『炸裂!! 赤い竜巻』 (後書き)

～登場人物紹介～

『カメック』

マリオを殺す為に理事長が送り込んだ刺客。

魔法を駆使した攻撃でマリオを苦しめた(?)が、

マリオの必殺技【赤い竜巻】レッドトルネードであえなく死亡。

生前は化学教師だったとかWWWW

第三話『野球部へ入部??』 (前書き)

僕が一番最初に書いた小説第三話です。

さあ、マリオは今度、何をしでかすでしょう。
それではご覧ください。

第三話『野球部へ入部?』

マリオと生徒どもも学園に戻った頃には、すでに諸活動の時間になっていた。

ルイージ「じゃあ早速だけど、部活決めよっか。」

マリオ「うわっ、何だいきなり。」

ルイージ「マリオは転入したばっかだから部活無いでしょ。」

マリオ「まあ。」

ルイージ「だから早く……」

マリオ「部活を決めるってわけだな。よし、いっちょ決めてやるか! ルイージ、お前も来い!」

ルイージ「えっ???! 僕には科学部の打ち合わせが……」

マリオ「いいから来い!!!」

ルイージ「ああああ、何でこうなるの???!!」

（キノコ学園グラウンド）

マリオ「……なんだ、このやな雰囲気……」

マリオ「ふん、俺はカスどもが大嫌いなんですね。」

ルイージ「カスって、お前!!」

と、その時!!

???「こらあ!!俺の仲間は何するんじゃないあ!!」

野球部部长「ペケダー」が現れた!

マリオ「おお、お前が部長か、入部希望します。」

ルイージ「そういう問題じゃないだろ。」

ペケダー「ふざけるな!お前みたいな赤い帽子の奴を野球部に入れてたまるか!」

ルイージ「突っ込むところ違うと思うが…………。」

マリオ「じゃあ、俺がホームラン打ったら入部でいいですか!」

ルイージ「だから違うって……」

ペケダー「いいだろう、だが、アウトかヒットだったらママより怖いおしおきだべえ!!」

ルイージ「ドク○○エかよ!しかもまた突っ込みどころ違うし!!」

こいつは人殺しだぞ!!」

マリオVSベケダー

審判「ノーカウント2死から始めます。ホームらで入部、アウトか
ヒットで死刑。プレイボール!!!」

ベケダー「三振にしてやる。」

マリオ「その白い玉で名古屋城をぶっ壊す!」

ルイージ「何故名古屋城なんだよ。というより展開速すぎるんだよ
!!!マリオは人殺しだろ!!!」

………続

第三話『野球部へ入部?』 (後書き)

～登場人物紹介～

『ペケダー』

キノコ学園野球部部長を名乗る男。
勝つためなら手段を選ばない男。

第四話『マリオVSペケダー』

マリオVSペケダー　　野球対決開始。

ペケダー「喰らえ!! 第1球! Sスライダー!!」

マリオ（スライダーか・・・俺の得意コース第21位だな・・・」

ルイージ「思いつきり苦手じゃないか。」

マリオ「打ったらあああああ!!!!」

部員E「かかれー!」

部員ども「ワアアアアアアアアア!!」

マリオ「わっ、なんだ! 雑魚! 邪魔だあ!」

マリオに襲い掛かった雑魚ども。何とか振り払うが……

審判「ストライクウウアONE(1)!」

ペケダー「どうだ!! 俺の魔球は!!」

ルイージ「めっちゃ卑怯じゃん!!」

ペケダーの魔球で簡単にストライクを取られたマリオ。

マリオ「……………やったぞ!!」

そのとき、グラウンドから何者かが入ってきた!

??? 「マリオさん、あなたがペケダーを殺してくれたんですね。」

マリオ「誰だ!」

本当の野球部部长（本部长）「僕は本当の野球部部长です。あの偽の部长に閉じ込められていたんです。」

マリオ「なぬ?!」

ルイージ（こんな展開あるの??）

………続

第四話『マリオVSペケダー』（後書き）

～登場人物紹介～

『野球部員ども』

ペケダー率いるキノコ学園野球部部員。

ペケダーの指示でマリオの打撃妨害をする。

ペケダーの死後、本当の野球部部長と共に善良な部員に戻る。

第五話『暴れん坊モンバーガ』（前書き）

前回、野球部偽キャプテンを倒したマリオ。
さあ、今度はどうなってしまうのか!!

第五話『暴れん坊モンバーガ』

くキノコ学園野球部専用グラウンドく

本部長「マリオさんを野球部に正式に入部させます。」

マリオ「ま、マジで!!」

ルイージ（うっそ……）

マリオ「やったぞルイージ!!俺達合格だ!!」

ルイージ「俺達って、僕も入ってるの??!!」

マリオ「当たり前だ!!」

ルイージ「そっ、そんなあゝ。」

そこへ、まわし1丁の生徒が入ってきた。

どうやら相撲部らしい。

相撲部員A「大変です!!マリオ様!モンバーガが…モンバーガ先輩が暴れています!!」

ルイージ「モ……モンバーガ!!」

ルイージの足がモンバーガという名前を聞いた途端、ルイージの足が震えだした!!

マリオ「ルイージ、知り合いか??」

ルイージ「知り合いも何も、ナンバーワンの糞馬鹿力の持ち主のモンテ族だ。」

一暴れしたらとんでもない事になるぞ!!」

相撲部員A「お願いです!! モンバーガ先輩を止めてください!!」

マリオ「やだ。」

ルイージ（あっさり断りやがった!!）

マリオ「1000000コイン払えたら行ってやる。」

ルイージ「払えるか!!」

相撲部員A「しょうがねえな。ほらよ。」

ルイージ「払いやがったエキストラ雑魚の癖に!!」

失礼だろ!!

マリオ「よし、行くぞ。来いルイージ。」

ルイージ「えっ、僕も行くの??」

マリオ「当たり前だ。こないと殺すぞ。」

ルイージ「ひええええええええ!!!!!!!!!!」

マリオは暴れん坊モンバーガがいると思われるキノコ学園土俵へ向かった。

なお、途中でさっきの相撲部員を吹き飛ばし、昼間の星となった。

くキノコ学園土俵く

モンバーガ「怪力パンチ!!」

ドカアッ!!

相撲部員B「ぐはぁ!」

モンバーガ「ヒップスピニング!!」

ブチイッ!!

相撲部員C「ゲボォ!」

モンバーガ「ハイジャンプブレス!!」

バコチン!!

相撲部員D「ギャァ!」

.....

ルイージ「うわぁ。重軽傷者約18人ってとこかな。」

マリオ「おもしれえ、早く殺りてえ（ゲヘヘ...）」

ルイージ（殺める気満々だー!!）

モンバーガ「そこにいるのはだれだあ！」

ルイージ「見つかったあー！」

モンバーガ「誰でもいいのだ！早く殺りたいのだ！」

ルイージ「あっちも殺める気満々だー！」

マリオ「たのもう！！モンバーガ！俺と勝負ダア！」

ルイージ「とうとう喧嘩^{バトル}うりやがった！！！」

モンバーガ「いいだろう！おらがお前を血祭りに上げてやる！！！」

ルイージ（以外に一人称がオラだ……）

モンバーガ「喰らえ！！『怪力パンチ！』」

マリオ「げえ！デブのくせに速い！！！」

間一髪、怪力パンチをかわしたマリオ。

マリオ「くそお、お返しだ！『マリオタツクル』！」

マリオのマリオタツクルが炸裂！！しかし！！

モンバーガ「ハハハハ！！効くか！！！」

ルイージ「マリオの技が効かない！！！」

マリオ「くそお、なんて奴だ！あいつに弱点は無いのか！」

モンバーガ「お返しだ！！『ヒップスピニング』！」

モンバーガのヒップスピニングが炸裂！！マリオは地面に叩きつけた！！

マリオ「くっ……やりあがったな！」

ここは土俵ですが、これはただの殺し合いなので、相撲も糞もありません。

マリオ「マリオバズーカ！！」

マリオバズーカとは！敵に突進してから拳骨でぶっ飛ばす技である！！しかも、威力絶大！！さすがのモンバーガも、これにはダメージを負ってしまった！

モンバーガ「クッ………」

マリオ「！！！（こいつ、パワーとスピードと防御はいいくせに、体力は無いんだ！だったら……）『赤い竜巻』！！」

モンバーガ「ギヤアアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！」

ルイージ「あっさり逝っちゃった！！」

モンバーガ「クソ……卑怯だぞ！！」

ルイージ「あっ、生きてた！！」

マリオ「何だ。しぶといな。じゃあ、こんどこぞ止めだ!! でやあ
ああああああ!!!!」

マリオはモンバーガを思い切り蹴飛ばす。

巨体なモンバーガがジャイロ回転し、これまた昼間の星となった
!!

マリオ「よっしゃあ!!」

………続

第五話『暴れん坊モンバーガ』（後書き）

～登場人物紹介～

『モンバーガ』

ナンバーワン

キノコ学園一の糞馬鹿力の持ち主のモンテ族。

突然暴れだし、マリオの手によって大人しくされた。（正確には殺された。）

第六話「マリオⅡ3000万コイン」(前書き)

前回、暴れん坊^{モンバーガ}を昼間の星にしたマリオ。
理事長はマリオを殺すべく、ある手段に出る。

第六話「マリオⅡ3000万コイン」

生徒Ⅰ「マリオさん！！大変だ！！」

生徒Ⅰがあわててマリオの元へ駆け寄ってくる。

マリオ「どうしたどうした。そんな間抜けな面して。」

生徒Ⅰ「マリオさん、これを見てください！！」

生徒Ⅰはマリオに一枚の紙切れを見せる。それは……

理事長《このキノコ学園を荒らしに荒らす最低のカス生徒【マリオ】。

そいつの首を理事長室に持ってきたら。賞金3000万コインあげる♪

理事長より》

マリオ「とうとう俺も賞金首か。」

ルイージ「って、そんな問題じゃないだろ！！」

突如として現れたルイージに殴られるマリオ。

ルイージ「どうするんだよマリオ！！学園中の生徒や教師に命狙われてるぞ！！」

マリオ「いいじゃないか。気にしない気にしない。襲い掛かってき

たら赤色の湖を作り上げるまでだ。ん?？」

マリオは、生徒Ⅰの腰にあるものを発見した。
それを強奪使用すると、生徒Ⅰが突然後ろにかわし、腰にあるものをマリオに向ける。

それは暗殺用の武器『殺人包丁^{キラナイフ}』だった。

生徒Ⅰ「ギャツハツハツハツハ！……！マリオを殺して3000万コインを手にするのはこの俺様だ……！

さっさと冥界に落ちやがれ……！」

生徒Ⅰは狂った目つきでマリオを殺そうと突進してくる……！
だが、マリオは垂直に跳んでかわし、生徒Ⅰの背中に強烈な蹴りを入れる。

その時、生徒Ⅰ内臓が破裂したらしく、生徒Ⅰは大量の血を全て吐き出した。

生徒Ⅰの周りには、赤色の湖が広がっている。

ルイージ「ひっ、ひいひいひい……！！！！」

それを見ていたルイージは涙をジェットエンジンのように噴射して怯えていた。

マリオ「どうしたルイージ。そんな嬉しそうな顔して。」

ルイージ「この顔のどこが嬉しそうな顔なんだボケェ……！！」

マリオ「んっ?？」

マリオは自分を見つめる殺気の数々を感じ取った。

不良達は一斉に大きい悲鳴を上げ、不良達の体が次々と鮮やかな赤の液体をばら撒きながら破裂する。

最後の一人が破裂した後、そこに残ったのは超巨大な赤色の湖と、無傷のマリオ、そして、涙が枯れて真っ白になっている緑一人。

マリオ「さあルイージ、ゲームセンター行こうぜ。おい、ルイージどうした。」

ルイージ「ドウシタツテイワレテモオ・・・」

と、その時！！

??????? 「『毒の機関銃』！！」

突然マリオの背後から毒の塊が飛んできた！！

マリオは慌てて前に跳んでかわす。

その時マリオはルイージを吹き飛ばし、ルイージは壁に激突する。
ルイージはその時ようやく正気を取り戻した。

ルイージ「えっ、何??? 何が起こったの???」

マリオ「どうやらゴミ屑の首領らしいな。」

首領^{ドン}パッくん「その通り!!! 我の名は【首領^{ドン}パッくん】、マリオ、
よくも我の同士を!!!」

許さんぞ!!!」

マリオ「へっ、少しは掃除しがいのあるゴミが出てきたな。」

………続

第六話「マリオⅡ3000万コイン」(後書き)

今回は、前のサイトに載ってないオリジナルストーリーです。
楽しんでいただけたでしょうか。

万が一楽しんでいただけたただ光栄です。

ルイージ「万が一ってどういう意味だよ。」

第七話「学園最強の不良」

首領^{ドン}パッくん「くらえ!! 『毒^{ポイズン}の拳銃^{リボルバー}』!!」

首領パッくんは拳銃のごとく毒を発射する。

マリオは横に側転し、毒をあっさりかわす。

マリオ「所詮植物だ。火で一瞬にして地獄送りだ!! 『ファイアボール^{アンダーランド}』!!」

マリオは右手に力を込めると、右手が火をまとった。

その右手を振ると、火は火球となり首領パッくんへと襲い掛かる!!

マリオ「やっぱりただのゴミ屑だったか。」

マリオが勝利を確信する。

しかし、首領パッくんはそんじょそこらの植物とは違った。

首領パッくん「『エレメントバキューム』!!」

首領パッくんは息を少しばかり吐くと、今度は物凄い勢いで空気を吸い始めた!!

それにファイアボールは巻き込まれ、物凄い勢いで首領パッくんの口の中に放り込まれる。

マリオ「俺の炎を食いやがった!!」

ルイージ「奴の別名は『要素食^{エレメントイーター}い・首領パッくん』。炎は愚か、水

や雷まで食し、魔法や特殊攻撃が聞かない。」

ルイージはぼっそりマリオにヒントを教えるが、マリオは全く聞こうとしなかった。

マリオ「こうなったら、あいつが食いきれないほどの炎をおみまいしてやる！！
レットトルネード『赤い竜巻』！！！！！！」

マリオの手から巨大な炎の竜巻を放った！！

首領パッくん「俺に炎などは効かん！！『エレメントバキューム』！！」

首領パッくんはまたしてもマリオの炎を吸い込んでしまう。

しかし、流石にマリオの赤い竜巻を全て吸い込んだので、首領パッくんもただじゃすまなかった。

首領パッくん「辛い！！辛すぎる！！炎を食いすぎた！！食いすぎた炎は吐きましょう。『エレメントスパウト』！！」

首領パッくんは吸い込んだ炎を一気に吐き出す。

赤い竜巻並みの威力の炎がマリオを襲う！！

マリオ「うぐぐ……この野郎、この俺様に炎をぶつけるとは……いい度胸じゃねえか！！」

見ろ！！俺の超兵器！！」

ルイージ「あれっ、マリオ武器持ってたっけ？？」

マリオ「普段使わないだけだよ。あのゴミ屑がムカついただけだ。

はあああああ!!!!!!!!!!!!!!」

マリオは全身に力を溜め、そして叫んだ。

マリオ「来い!! 『隕石破壊』^{メテオデストロイ}!!」

すると天井が突然粉々に砕け、空から超巨大なハンマーが降ってきた!!

ハンマーはマリオの前に落ちると、マリオはそのハンマーをつかみ、右手で軽々と持ち上げた。

マリオ「これが俺の超兵器『隕石破壊』だ!!」

首領パッくん「ふん、武器を手にしたくらいで粹がりやがって!!」

マリオ「粹がってるんじゃない。勝利を確信してるんだ。」

首領パッくん「何だこのやろお!! これで終わりにしてやる300万コインは俺のものだ!! 『毒の戦斧』^{ポイズンハルバード}!!」

首領パッくんは自分の顔に毒の力を溜めると、その顔をマリオに叩きつけるようにする!!

マリオは、隕石破壊を構え、大きく振りかぶると……

マリオ「くらえ!! 『エクセレントスマッシュ』!!」

すると、隕石破壊が赤く光りだし途轍もないパワーを放った。

マリオはそれを首領パッくに思いっきりぶつけた!!

首領パッくん「ギッ、ギヤアアアア!!!!!!!!!!!!!!」

首領パッくんはマリオのエクセレントスマッシュに力負けし、大きく打っ飛ばされた!!

首領パッくんは壁を突き破り、後者の外へ落下した。(ここは三階)

首領パッくんは地面に激突し、そのショックで息の根が止まった。

マリオ「ふう、まさかこの俺があいつごときに隕石破壊を使うことになるとは……」

ルイージ「どっちにしろ、マリオ、お前あの首領パッくんを殺したんだぞ!!」

マリオ「それがどうした??」

ルイージ「あいつ、風紀委員を瞬殺してしまうこの学園の最強の不良なんだ!!」

マリオ「えええつ、あの植物が??!!」

こうしてマリオは、キノコ学園最強で最悪の不良となった。

………続

第七話「学園最強の不良」(後書き)

～登場人物紹介～

『^{ドン}首領パッくん』

通称、^{エレメントイーター}【要素食い・首領パッくん】。

キノコ学園の最強の不良だったが、マリオの『エクセレントスマッシュ』により散る。

第八話「最低最悪の？1誕生」(前書き)

前回、一キノコ学園最強の不良【首領^{ドン}パツクン】を倒したマリオ。しかしこの瞬間、最低最悪のキノコ学園最強の不良が誕生してしまった。

第八話「最低最悪の？1誕生」

僕の名前はルイージ。キノコ学園の3年生である。

僕は不良達の虐めに耐えている以外、ごくごく普通に学園ライフを送っていた。

しかし、あいつが来てから僕の人生は壊滅的になってしまった。

そう、あの赤ナスのせいだ……

マリオ「ナハハハハハ！！！！俺が学園最強だ！！下等生物ども、この俺にひれ伏すがいい！！！」

不良E「このままじゃ学園があいつのものになってしまう！！この学園は、僕たちが守るんだぁー！！！」

ルイージ（なんか不良達が善人に見えてきた。）

マリオ「キサマ、この俺に逆らうのか。いいだろう。望みどおり冥界へ逝け！！！」

マリオは左手の親指で不良Eの額を軽く押す。
すると不良Eの首は一瞬にして空のかなたに消え失せてしまった。

マリオ「ナハハハハハ！！！！この世界で俺に勝る者なしだ！！ナハハハハハ！！！！！」

ルイージ「マリオ！！もうやめろそんなことをして何になるというんだ！！！」

マリオ「何になる？？そんなの簡単さ。楽しいから！！！」

ルイージ「なっ、ナンダッテェ!!」

マリオは自分の楽しみのためにキノコ学園の生徒や教師を次々と殺して言ったのだ!!

こうしてキノコ学園は完全に壊滅状態となったのだ。

その頃、理事長は……

（キノコ学園・理事長室）

理事長「くそお、あの植物まで倒されるなんて……」

幹部1「理事長様、生徒・職員全員の退学・解雇手続き完了しました。」

理事長「ご苦労。さて、私たちも行きましょう。この学園は終わりよ……」

幹部1「ハイ……」

幹部2「……俺は……」

幹部3「どうした。浮かない顔して。」

幹部2「……俺は……納得いかねえ。小童こわっぱごときにこの学園を潰されるなんて……この学園は……俺の親父といってもおかしくねえ!!俺があいつを殺してやる!!」

その時、理事長に希望の光が見えた。

理事長「…そうだわ。忘れていた。まだあなたがいたじゃない！
あんた達！！大至急他の2人をつれてきて！！」

幹部1・2・3「はっ、はい。」

～そして、一時間後～

理事長「みんなそろったわね。」

幹部4「何なのよ。デート中に呼び出して。別れたら責任取ってよね。」

幹部5「俺なんか弟たちが腹をすかして待ってるんだぞ。」

すると、理事長は何時にも増して真剣な表情で幹部に話しかける。

理事長「あなたたちに、キノコ学園始まって以来の神様階級の指令を与える。」

幹部全員「！！！！」

※理事長たちの間では、仕事の難しさなどを階級と呼んでいる。

最も低い階級から、塵屑ダスト、最弱ワースト、凡人ノーマル、上級アドバンス、玄人エキスパート、超人グレート、最強スト、究極アルティメット、そして神様と辛く、苦しくなっていく。

理事会の仕事で神様階級がでたのは初めてである。

ちなみに、仕事とはパシリから国の侵略まで。（国の侵略ですら究極階級）

理事長「あなたたちに、この男を殺してほしいの。」

理事長はマリオの写真を幹部たちに見せる。

理事長「名はマリオ。この学園に来てから生徒2538人、教師462人、その他100万人を血祭りに上げているわ。

これが証拠写真よ。」

理事長は幹部たちにマリオが手につけた後の悲惨な写真や赤に染まった写真が見せられた。

幹部1「こっ、ここまで……」

幹部2「小童が……」

幹部3「いくらなんでもやりすぎだろ。」

幹部4「……………（気絶中）」

幹部5「弟たち連れてこなくて良かった。」

理事長「この学園の希望はあなたたちしかないの。頼んだわよ、

【ロイヤル
フラッシュRoyal flush】の諸君。」

Royal flush「了解。」

くキノコ町・大通りく

町の住人Z9「グハア……」

マリオはキノコ町の住人全てを皆殺しにし、壊滅させてしまった。

マリオ「ナハハハハハ！！！！次は首都だぜ！！」

ルイージ「だれか……誰かマリオを止めてくれ！！」

……続

第八話「最低最悪の？1誕生」 （後書き）

（登場人物紹介）

エキストラ

『不良。町の住民などの雑魚の皆さん』

名前の通りです。

皆さん、ご協力ありがとうございました。

葬儀費はこちらで負担させていただきます。

第九話「Royal flush現る!!」(前書き)

学園最強となり調子に乗るマリオ。

これまで述べ100万人を殺したのだ。

理事長は最後の手段として、^{ローヤル}Royal ^{フラッシュ}flushにマリオ討伐を命じる。

第九話「Royal flush現る!!」

〽とある戦場〽

軍曹「我々はこれより、国の未来がかかった重大任務を実行する。
それは、ある男の抹殺だ。

しかし、その男はかなりの強敵である。
皆のども、心してかかるように!!」

兵士達「イエッサー!!」

兵士A「……!!、軍曹!! 早速目標を^{ターゲット}発見しました!!」

軍曹「ほう、これほど早く出会えるとは、我々がついている!!」

兵士B（ついてないと思うが……）

軍曹「では、目標に銃口を向けろ!!」

ガチャツ

兵隊達は一斉に“目標”にマシンガンやらアサルトライフルやら
を向ける。

軍曹「撃て!!!!」

スダダダダダダダ!!!!

兵士達は一斉に“目標”に弾を発射する!!

兵士達の銃弾が“目標”に向かう!!

“目標”「へっ、無駄だと言うのがまだ分からないのかな。あのカスどもは……『赤い竜巻』^{レッドトルネード}」

“目標”は手から巨大な炎の竜巻を放った!!

竜巻は兵士達の銃弾を燃やし、そのまま兵士・軍曹を燃やしつくした!!

兵士絵達&軍曹「具；おr時gwr；おい具jy94うgjリオwgj歩rwjぐいおjgfにおgjw4いて追うj4j8お言うjwlg y8wrig8wh!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

兵士達と軍曹は灰となり、この戦場に残ったのは“目標”と、隠れて灰となった兵士たちと軍曹の供養をしている緑だけとなった。

“目標”「いやあ。やっぱり一気に万単位を殺すのは気持ちいいね!! ルイージ!!」

ルイージ「どこがだ!! バーカ!! これで500万人目だぞ!!」

マリオ「何だよ。このスーパーマリオ様の強さをこの世界に知らしめるんだよ!!」

ルイージ「だからっておまえなあ、やっていいこととアカンことがあるんだよ!!」

マリオ「……ああっ!! お前と話すとむかつくんだよ!! 学園戻って飯食ってこよ。」

午後からマメリーア王国を滅ぼしに行くんだからよ。」

ルイージ「それをアカンことだって言ってるんだ僕は!!」

くそして、キノコ学園く

マリオ「……ん?? お前等、何の差し金だ??」

マリオがキノコ学園へ来て見るとそこには【マリオ大歓迎】と書かれた旗と、豪華な料理が用意されていた。

マリオ「ほほう。ようやくこの学園のクズどもはマリオ様の素晴らしさを分かったようだな。

さてと、早速そのリッチな飯を戴くとするか。」

マリオは豪華な料理の前に立ち、中央のローストチキンを食べようとしたその時!!

ガチャッ!!

突然マリオの足元に丸い穴が開いた!!

マリオはまんまと穴に落ちていった。

マリオ「誰だあ!! この俺を罠にかけたのは!!」

いや、“大歓迎”の文字と豪華な料理で罠だと気付けよ。
定番だぞ!! 定番!!

く穴の底く

マリオが落ちた先は、一面に闇が広がる世界だった。

マリオ「イテテテテ……どこだここは……」

???「ようこそ!! この学園の【地下コロシウム】へ、いや、マリオの墓場へ……」

マリオ「だっ、誰だ!!」

突然回りが明るくなり、目の前に現れたのは一人の人間の女性と5体のカメは立っていた。

ピーチ「私はこの学園の“理事長”【ピーチ】といいます。

そして彼らは、あなたを殺すためにここへ来た【Royal flush】の皆さんよ。

右から、あなたを倒すただけに12年間修行をした最強の戦闘マシン赤ノコノコ、【A・ブガズン^{エース}】。

次に、短剣からアサルトライフルまで、武器の全てを極めたブロス、【X・ガンブロス^{イクス}】。

命を賭けたギャンブルは負け知らずのジュゲム、【J・ポット^{ジャック}】。

飛行能力をかねそろえ、この世の全てを極めたカロン、【Q・フロウラ^{クイーン}】。

最後に、その魔術で全てをつかさどるカメック、【K・メ^{キング}ガカメック】。

みんな、私が集めた最強の戦士たちよ。」

マリオ「ほう、要するに、しぶといハエだろ?? いいだろう、俺が一匹残らず叩き落してやるぜ!!」

????「マリオ!!……グヘッ!!」

突如として上からルイージが降ってきた。

ルイージ「落ちてきたでしょ……って、それどころじゃなかった。
マリオ!! そいつ等は今までお前が殺してきた奴等とは格が違うぞ
!!! 気をつけろ!!!」

マリオ「心配ねえよ。俺は絶対に負けはしないんだからな。」

ピーチ「自信だけは有り余ってるようね。哀れね。では、Royal
flushの皆さん、さっさと片付けてしまい。」

Royal flush「了解。」

………
続

第九話「Royal flush現る!!」(後書き)

～登場人物紹介～

『ピーチ』

マリオの命を狙うキノコ学園理事長。

マリオを【地下コロシム】におびき寄せ、最強の部下【Roy
al flush】にマリオを殺す様に命じる。

第十話「Royal flushの脅威」(前書き)

理事長の罠にまんまとはまり、穴に落ちてしまったマリオ。

落ちた先は【地下コロシウム】と呼ばれる所で、そこには理事長

【ピーチ】とRoyal flushの5匹が待ち構えていた。

第十話「Royal flushの脅威」

マリオ「さっさと灰になれ！！」
『レッドトルネード 赤い竜巻』！！」

マリオはRoyal flushのメンバーをいっぺんに片付けようと、いきなり大技【赤い竜巻】を放った！！

巨大な炎の竜巻が5匹に襲い掛かる！！

メガカメック「真正面から来ましたか。無駄なことを。『ライトバリア』！！」

黒いローブのカメック【メガカメック】は余裕の表情で5匹の目の前にバリアを張る。

なんと赤い竜巻はそのバリアで跳ね返され、軌道を買えてマリオに直撃！！

マリオ「グハア！！」

ルイージ「だから言っただろ！！そいつ等は今までお前が殺してきた奴等とは格が違うぞって！！

というか、生きてるか？？」

マリオ「クソオ、自分の攻撃でダメージを受けちまうなんて、あいつ等、ハエのレベルを超えているな……」

ガングロス「テメエ、俺達をハエ呼ばわりしたことを後悔させてやるぜ。行くぜミナ、連携技だ。」

ポット「いいだろう、僕も一暴れしたいところだったんだ。」

フロウラ「って、アンタが仕切らないでよね。」

ブガズン「さあ、お前の罪w

メガカメック「Royal flush必殺連携、発動!!」

メガカメックの合図と共に、5匹はマリオの目の前から姿を消したかと思うと、いきなり鍛え上げられた肉体を持つ赤ノコノコ【ブガズン】がアッパーでマリオを殴り飛ばし、飛ばされた先で翼の生えた水色のカロン【フロウラ】に強烈なかかと落としてマリオを地面に叩きつけ、今度は金色の雲にまたがるジュゲム【ポット】の投げた『パイポボム』がマリオに落とされ爆発を起こしたかと思うと、虹色の甲羅を持つブロス【ガングロス】が超の付くほど巨大なハンマーでマリオを叩き潰し、止めにメガカメックが杖から巨大な黒い稲妻をマリオに放つ!!

マリオ「ぐああああああああああああああ!!!!!!!!!!」

最後にRoyal flushのメンバーが後ろを向き決めポーズをとると、マリオはまばゆい光をおび、爆破された。

ルイージ（せつ、戦隊もの??）

ピーチ「フフフフフ………これがこのRoyal flushの必殺連携『コンビネーションデストロイ協同撃破』。これをくらって生きていたものは………いない。」

ルイージ「ナンダッテエ!! マリオ!! マリオ!!」

ピーチ「ちよつとそこの緑！！なんでマリオを心配しているのよ！
！アンタも同罪で殺すわよ。」

ルイージ「ヒィィ！！勘弁してください！！」

メガカメック「やれやれ、なんか簡単に片付きましたね。」

フロウラ「これが本当に神様階級ゴットランクの仕事なの？？」

ガンブロス「……腹減った。」

ピーチ「そうね。では、帰りましょうか。」

理事長ピーチとRoyal flushは地下コロシウムを後に
した。

残されたのはルイージと黒焦げになったマリオであつた。

ルイージ「Royal flush……まさかここまで………」

ルイージはマリオを担ぎながら暗闇へと消えていく6つの影を見
つめていた。………続

第十話「Royal flushの脅威」(後書き)

～登場人物紹介～

『Royal flush』

理事長ピーチの最強の部下。

その実力は本物で、マリオを必殺連携【コンビネーションデストロイ『協同撃破』】でマリオを倒す。

第十一話「マリオ、ついに死亡!!」(?) (前書き)

R o y a l f l u s h に戦いを挑むマリオ。
しかし、彼等の驚異的な力の前に敗れ去る。
マリオ無敵伝説。ここで終止符がうたれた。
マリオはついに死んだ…… (?)

第十一話「マリオ、ついに死亡!!」(?)」

「1月1日・元旦」

元旦になりました。

皆さん、2010年は何か楽しいことは起こるでしょうか。

キノコ王国の人たちは、新年早々超Goodニュースが起きました。

なんと、今まで約1000万人を殺した凶悪殺人鬼【マリオ】が正義の味方Royal flushの手により始末されたのだ。
キノコ王国……いや、全世界が歓喜に包まれた。

いまや世界中でマリオ死亡記念の祭りやら何やらで盛り上がっている。

ある男を除いては……

男1「ふん、たかが犯罪者消えたくらいで、くだらん……」

身長が2メートルを越す巨漢がマリオ死亡を知らせる新聞を破り捨てて。

「キノコ学園高等部1年4組」

校長「全校生徒の皆さん、今日はマリオがついに死んだことを記念して、一ヶ月休校!」

生徒の皆さん「Yahoo!! Go-gogo!!」

ルイージ（……………。）

くキノコ学園理事長室く

ピーチ「みんな、今までご苦労だったわ。今年でRoyal flushもこの学園も卒業ね。」

メガカメック「はっ、お褒めの言葉ありがとうございます。」

ガンブロス「……というか、Royal flushを作った意味なかった。」

フロウラ「フッフ……それもそうね。」

ポット「おい!!」

ピーチ「いいのいいの。その通りだったからWWW」

ポット（理事長……）

ブガズン「さてと、俺達もそろそろ

ピーチ「では、みんなお疲れ。」

Royal flush「お疲れ様でした。」

く午後6時・とある路地く

男1「どいつもこいつもマリオが死んだ記念ばっかじゃねえか。この国は馬鹿だらけか。殺人鬼でこんなドンちゃん騒ぎになるか??? 普通。」

そりゃあ、—1000万単位(8ケタ)以上殺してるんだもん。

男1「さてと、この国にもう長居することはないな……………ん???
……………おっ、お前……………」

男2「……………久しぶりだな……………」

↓午後7時・ルイージの家↓

アナウンサー《【季節外れの24時間テレビ!!マリオが死んだ!!平和が戻った!!この先ずっと平和でありますようにSP!!】》

出演者ども《《イエーーーーー!!!!!!》》

ルイージ「ハア、どのチャンネルもマリオの死ばっかだな。」

と、

んぼんぼんぼんっぼんぼんっぼん♪(ルイージマンションの音楽)

ルイージの家の電話が鳴る。

ガチャッ

ルイージ「もしもしー。」

男2 《よおルイージ、元気してるか??》

ルイージ 「それはこっちの台詞だよ。どっかの殺人鬼の亡霊さん。

いまどこにいるの?? マリオ。」

マリオ 《今か。今は【マドギワ島】ってどこにおってな。そこで釣れる魚は最高でさ。》

ルイージ 「マリオ。観光が目当てじゃないだろ。修行は順調に進んでいるか?? 人殺ししてないか??」

マリオ 《ああ、ついさっきこの島最強の道場を破った所だ。ちなみに今のところこの島の死者はゼロです。》

ルイージ 「マリオ。随分キャラが変わったな。」

マリオ 《うるせえ。何のことだよ。》

ルイージ 「そうか。あんときのショックでお前何故か残忍な性格だけ消えたんだな。」

マリオ 《だから、何のことだよ。そんな記憶喪失のなり方ある分けねーよ。》

ルイージ 「そうなっちゃいます??」

マリオ 《そうなるわ。バカ。》

ルイージ 「……で、次はどこへ行くんだ??」

マリオ《ああ、次は【ドルピック島】へ行ってみようと思う。

そこにはそっちの学園にいた相撲部のモンテ族より強い奴等がうじゃうじゃいるって噂だからよ。》

ルイージ「そう。じゃあ、健闘を祈るよ。

くれぐれも、

マリオ《殺すなだろ。何遍も言わせるな。切るぞ。》

ガチャツ、ツー。ツー。ツー。

ルイージ「……さてと。僕も。」

ルイージはテーブルにある【退学届】を手に取る。

……続

第十一話「マリオ、ついに死亡!!」(?) (後書き)

～登場人物紹介～

『男1』

マリオの死と言う最大のGoodニュースを何故か喜ばない巨漢の男。

マリオと何かしらの面識があるらしいが……

最終話「帰ってきたマリオ」（前書き）

R o y a l f l u s hの手により地獄に葬られたかと思われたマリオ。

しかし、彼は生きていた!!

マリオは今、R o y a l f l u s hを倒すため、修行の旅に出たのだ。

そして、ルイージも……

最終話「帰ってきたマリオ」

〈冬休み明け・キノコ学園理事長室〉

ピーチ「今更退学……ですか。」

ルイージ「はい、マリオのことにより、僕の家も大打撃を受けまして。海外で働くことにしたんです。（僕親の顔知らない）」

ピーチ「そう、でも、確かにマリオが暴れたことによって急遽税が80%に増えたもんね。いいわ、認めましょう。」

ルイージの退学届を読み終えた理事長ピーチはルイージの退学を認める。

ルイージ「あっ、そうそう、一ついいですか??」

ピーチ「何でしょうか。」

ルイージ「理事長は、最近外国で噂の道場破り【ながつき長月 一茶いっさい】を知っていますか??」

ピーチ「ええ、なんかゆるそうな名前だけど、1月2日に突如として現れ、次々と各国最強の道場の看板を取っていったと聞いているわ。」

ルイージ「はい、その一茶が近々このキノコ王国に来るそうです。僕の予想では彼が来る所はあのマリオを殺したRoyal flushのいる、キノコ学園だと思っています。」

ピーチ「……でももう彼等はRoyal flushを抜けているし、新しいメンバーに代わったわよ。」

ルイージ「いや、彼はあの5人がこの学園にいるまでにキノコ王国へ来ます。」

理事長、用心してください。」

ピーチ「……………はあ。」

ルイージ「では、今までありがとうございました。」

ルイージは深々と頭を下げるとキノコ学園を去っていき、キノコ王国を飛び出したのだ。

一方、マリオはと言うと…………

マリオ「（ここがこの国の最強の道場か。よし、朝飯も食ったし、いっちゃやってやるか!!）たのもう!!」

弟子A「なっ、何者だ!!」

弟子B「道場破りか!!」

弟子C「って、お前は!!」

マリオ「俺の名は、長月 一茶だ!! この道場の看板を戴きに来たぞ!!」

＼ルイージ・最初の到着先＼

※ルイージ編は外国感を出すため、英語です。

ルイージ「I'm sorry. Was not the gym breaking of Nagatsuki Issa seen here? (すみません。ここに、長月一茶という道場破りをみませんでしたか??)」

元師範64「It saw. The signboard of the gym was successfully taken. Here is the 64th Issa gym」 now. (見たよ。あいつ、この道場の看板をまんまと持っていたよ。今やここは【第64一茶道場】だ。)」

ルイージ「Really? Thank you. (そうですか、ありがとうございます。)」マリオの奴、もうそんなに道場を破ったのか……。」

　　＼マリオ・さっきの道場＼

師範「参りました!! この道場は今日からあなた様の道場です!!」

マリオ「うむ。この道場は【第81一茶道場】だ!!」

では、俺はこれから次の道場へ向かう。それまで留守を頼んだぞ。」

道場の人達「へへえ〜。」

マリオはそういうと10秒前看板を取った道場を後にした。
すると、外には第十一話に登場したあの巨漢が立っていた。

男1「おう、順調のようだな。マリオ。」

マリオ「【クッパ】……また会ったな。」

クッパ「ガハハハ……相変わらず長月 一茶の快進撃は凄いな！
！ここってこの国の週刊誌に毎日乗っている超超有名道場じゃないか。まあ、マリオなら破るの容易いがな。」

マリオ「だからって、また大げさに記事を書くなよ。」

クッパ「んだと！！誰のおかげで強い道場のあるところ行けると思ってるんだ。我輩の書いた記事で強豪道場が名乗りを挙げたからに決まってるだろ。」

マリオ「ああ、それもあるけどよ、あいつがいなかったら、俺もこうして修行の旅に出れなかったと思うぜ。」

（数日前・理事長ピーチとRoyal flushが去った後のキノコ学園地下コロシム非常口（マリオ目線））

ダツタツタツタツタツタツタツタツ………

地下の非常口を必死で走る男がいた。

その男の背中には、黒焦げになり虫の息だった男がいた。
それが俺だ。

そして、俺を背負って走る男の名は……………

（時は戻り現在・その男は…………）

元師範13「Nagatsuki Issa so much why . . you . . is run after. Is it a pressman? Is it police?（お前、どうしてそんなに長月 一茶のことを追っている。新聞記者か?? それとも警察か??）」

その男「When it is possible to say, and Issa is actually my best friend, and the story of him a ctive in foreign countries is heard, I also have in advertent ly gone out from the country.（いえ、実は一茶は僕の親友でして、海外で活躍している彼の話を聞いていたら、つい僕も国を飛び出してきました。）

元師範13「Is it so or is the . . . be st friend run after and does y our name . . in . . . ?（そうか……親友を追って……で、お前の名前は??）」

ルイージ「Yes, I am 【Luigi】 I have seen that Mario with the unas sisted eye.（はい、僕は【ルイージ】です。あのマリオを自分の肉眼で見たことがあります。）」

そして、3月、卒業式の日

校長「これを持ちまして、第128回、国立キノコ学園卒業式を
終
わり
m

???「ちょーーーと待ったあ!!」

ドッカアアアアアアアン!!

突然キノコ学園のホールの扉が破壊された。

キノコ学園の生徒・職員全員が、扉を破壊した男二人に視線を向
ける。

???「いよいよだね。」

???「ああ、俺はこのためだけに修行したんだ。」

????「さあ、ここからが正念場だ。気合入れていけよ。」

???「ああ、わかってるさルイージ。」

ルイージ「行くぜマリオ。」

マリオ「ああ、せーの……」

マリオ&ルイージ「たのもう!!!!!!!!!!!!!!」

R
e
d

t
o
r
n
a
d
o

……
完
（赤い竜巻・マリオ）

最終話「帰ってきたマリオ」（後書き）

～登場人物紹介～

『ルイージ』

主役のマリオと共に第一話から全て出演しているマリオの良き親友。^{ベストフレンド}

Royal flushにより殺されかけたマリオを助けたのも彼。

今までマリオの行動を全面否定していたが、やっぱり親友の絆は素晴らしい。

読者の皆さんも、友達や親友は大切にしようね。

～作者からの一言～

えゝ、何か続く！！…みたいな終わり方をしましたが、実はこれ、この小説の続編の前振りです！！

続編ではマリオが修行の旅の様子を書いてみたいと思います。

道場破りにやってきたマリオの前に、様々な試練が立ちふさがります。

マリオは、この試練をどうやって切り抜けていくのかというものも書きたいと思っています。

それと、何時マリオとルイージが再開したのかwww

では、続編を楽しみにしててください。

とりあえずこの小説は終わりです。

ポボンポボボジュ～♪（ミスの音）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2900i/>

Red tornado ～赤い竜巻・マリオ～

2010年10月9日23時26分発行